

文京区基本構想推進区民協議会
コミュニティ・産業・文化部会
(第2回)

日時：平成28年7月25日（月）
18時30分～20時39分
場所：文京シビックセンター4階
区民会議室4階ホール

文京区企画政策部企画課

第2回 コミュニティ・産業・文化部会 会議録

「部会員」

部	会	長	平	田	京	子
部	会	員	牛	嶋		大
部	会	員	岡	田	伴	子
部	会	員	出	井	久	之
部	会	員	上	田	武	司
部	会	員	野	口	眞	寿
部	会	員	青	木	和	雄
部	会	員	飯	沼	典	雄
部	会	員	山	口	一	夫
部	会	員	石	井	朋	佳
部	会	員	富	永		直
部	会	員	村	田	展	江

「幹事等」

企 画 政 策 部 長	吉	岡	利	行
区 民 部 長	林		頭	一
アカデミー推進部長	田	中	芳	夫
企画政策部企画課長	加	藤	裕	一
企画政策部政策研究担当課長	高	鳥	康	広
企画政策部財政課長	大	川	秀	樹
総務部職員課長	辻		政	博
区民部区民課長	古	矢	昭	夫
区民部経済課長	福	澤	正	人
アカデミー推進部アカデミー推進課長	竹	越		淳
アカデミー推進部観光・国際担当課長	熱	田	直	道
アカデミー推進部スポーツ推進課長	細	矢	剛	史
教育推進部真砂中央図書館長	齋	藤	勝	美

○平田部会長 皆様、お待たせいたしました。今日もまだ梅雨明けがまだということで、何か涼しいような暑いようなよくわからない天気ですけれども、皆さんも部会にお付き合いくださって、ありがとうございます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、部会員の出欠状況や配付資料等につきまして、事務局から説明をお願いします。

○加藤企画課長 それでは、まず部会員の出欠状況についてご報告いたします。棕野部会員から事前に欠席のご連絡をいただいております。それと、まだ5名の方が集まっておりませんが、特に欠席というご連絡をいただいておりますので、いらっしゃるというふうに思っております。

配付資料について確認させていただきます。第1回目のときに郵送の資料等を確認させていただいておりますので、本日使う資料のみについて確認させていただきます。

まず、分野別部会資料第2号、「基本構想実施計画の今後3か年の方向性及び指標（案）について」です。続きまして、分野別部会資料第3号、A3のもので、「平成28年度基本構想実現度評価の実施状況について」です。それと、分野別部会資料第4号、「平成28年度まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理の実施状況について」です。こちらにつきましては、郵送のものではなく、本日席上に置いてある差し替えであるこの総合戦略評価表、こちらのほうを使いますので、よろしくお願いいたします。「第3章 計画事業」、こちらの全計画の体系、こちらも本日使いますので、確認をお願いいたします。

本日使う資料については、以上の4点になります。

それと、席上に冊子が4冊置いています。特に、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、こちらのほうは本日の検討課題の材料になっております。

本日、先ほどの資料の中でないものがあれば、事務局のほうでお持ちしますが、大丈夫でしょうか。よろしいでしょうか。

また、事務連絡を1点だけさせていただきます。記録についてですが、第1回と同様に、発言者の氏名を記載した全部記録ということで区民の方に公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○平田部会長 ありがとうございます。

それでは、ちょっとまだお見えになっていない方もいらっしゃるようですけれども、結構、皆さん議題が押していますので、更に出席者の方にはパソコンまで持ち込んでいただいて、やる気が満々とお見受けしましたので、先に進みたいと思います。

まず、ワークショップでよく行われるのは1回目の振り返りということなので、簡単におさらいをしまして、また、今日、前回終わらなかったワークショップのところをやって、それから、今日はその後、普通の会議に戻りまして、また担当部署の方からご説明をいただいて、皆さんから意見をいただく。それが新しい資料を使っての作業になりますので、大きくは、今後3か年の方向性と指標はこの同じ方法でやって、今日は観光と交流を残り一つお願いしたいと思います。

それから、次が基本構想の昨年度の評価ですね。もう見方が何となくお分かりになったと思

ますので、こちらを30分間。

それから、新しい今後の方向性としまして、人口が減っていく、人口減少社会というところで、どのように文京区は未来を見出していくのかというところを25分間。

それから、六つ目が忙しいんですが、最後に政策を実現するための行財政改革の取組についてご説明を10分ほどさせていただいて、まとめて、それでもうきゅうきゅうに詰まっておりますので、皆さんたくさんメニューがあるということなのでご了承ください。ここは人数多いのでサクサクとやりたいと思います。

では、簡単に前回の振り返りですけれども、前回は三つやっただきまして、素晴らしかったですね。前回はたくさん意見が出て、これがワークショップの理想形です。地域コミュニティでは、たくさん意見が出て、指標と、それから、新しい課題、見える化してくださいという新しいご提案、それから、共有化したりサポートして、オープンデータにも使えると思うんですが、いろんな情報を出していくことによって、みんなで共有しましょう。それから、地域の魅力を生かしてやってくださいというような、全部はご紹介することはできませんけれども、そういうたくさん意見が出まして、今日もこの意気をお願いします。

それから、次が、産業振興ということで、産業振興は現実的な意見がたくさん出まして、特に指標が多く出たのが魅力的です。新しい視点での指標をありがとうございます。評価の文言の新しいご提案、それから、商店街のほうのいろんなこと、そういう指標、それから、つながっていきましょう。一つ、区だけで頑張らないで、いろいろつながってくださいという意見が出されました。

三つ目が、生涯学習と文化振興とスポーツ振興でまとめて忙しかったんですが、こちらをやらせていただいて、ここでは既存の財産を生かしましょうということで、既存の施設を活用したりだとか、それから、予算を考えてやってくださいとか、いろいろな意見が出まして、指標も、それからPRが足りないんじゃないか、新しいパブリックビューイングとか、いろんなものを導入したらどうだろうという、新しい提案を誠にありがとうございます。これらが前回の振り返りです。

今日も皆さん、新しいご意見を発想をお待ちしておりますので、早速、3か年の方向性と指標についてお願いします。もう皆さん2回目ですので、ルールのご説明はよろしいですよ。大体大丈夫ですよ。付箋、カードですね、カードに記入しておいてください。

また、今日は色が変わってまして、前回は指標がこの色だったんですけれども、今回はピンクですね、お使いください。指標はピンクです。それから、方向性に関するほうが緑と変化していますので、それ以外は同じです。

大きな字で、また一つの意見を1枚、ぜいたくに使ってください。大きく書いてアイデアをお願いします。

それでは、今日は裏返しまして、こちらのほうでお願いしたいと思います。

最後の積み残しである観光と交流、これも結構広い分野なんですね。関係部署からご説明していただきますが、皆さんは今後3か年の計画に入れてもらいたい新しいご提案、それから、指標についてのご意見をお願いします。

それでは、担当部署の方からお願いいたします。

○田中アカデミー推進部長 こんにちは。アカデミー推進部長の田中と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、前回に引き続きまして分野別部会資料第2号ですが、3-6です。44ページをお開きいただきたいと思います。

今後3か年の政策の方向性でございますけれども、概略は記載しておりますが、本計画では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を視野に入れまして、今以上に多くの方々に本区の魅力を知ってもらい、訪れていただくことが重要ということで、そのための取組を推し進めていきたいと考えております。

指標は四つでございます。45ページからです。

一つは、「区のまつりイベント来場者数」というものでございまして、前計画と同様の指標になっております。継続した指標を用いることによりまして、区を代表する「文京花の五大まつり」、「文京朝顔・ほおずき市」、「根津・千駄木下町まつり」などで、更なる来場者の増加を目指して支援してまいりたいと思います。

指標の2ですけれども、二つ目は、「観光インフォメーションの相談件数及び観光協会ホームページのアクセス件数」でございます。

問合せの実態、実情に合わせまして、前回、計画の指標であります相談件数だけでなく、ホームページのアクセス数、これを加えまして一体の指標とするというものでございます。

情報発信に力を注ぎまして、観光資源の魅力の向上を図ってまいりたいと考えております。

46ページをお開きください。

三つ目の指標は、「観光ガイドの参加者数」になっております。前計画では申込者数としておりましたが、より実態に即した形で参加者数を指標として取り組んでございます。

四つ目の指標は、「外国人おもてなしボランティアの登録人数」ということで、新たな指標でございます。来る東京2020競技大会の開催を見据えまして、この指標を採用することによって、外国人の来訪者、訪問者を温かく迎えるまちにつなげていきたいというところでございます。

最後、交流でございます。3-7、次のページ、47ページをご覧ください。

現状と今後3か年の方向性につきましては、ドイツ・カイザースラウテルン市との姉妹都市交流から、あと2年で30年ということで迎えようとしておりますが、この間、区内の外国人人口は着実に増加をしておりまして、記載のように、5月1日現在で行きますと8,600人余ということで、全体の約4%になっているというところでございます。

国内交流につきましては、特別区長会において、「特別区全国連携プロジェクト」、これを推

し進めておりまして、東京だけでなく、全国各地域の経済の活性化、まちの元気につながるような取組を展開していきます。

この度の熊本地震などでは、文化と歴史を縁する包括連携覚書、こういったことを締結しております熊本市からの要請に基づきまして、支援物資の輸送、職員の派遣等を迅速に行ったところでございます。こうした中、日頃のこういう積み重ねがますます肝要になっておりまして、これまで以上に具体的な交流を推進していきたいと考えております。

48ページをお開きください。

指標は三つになっております。

一つ目の指標は、「海外の都市間交流事業に関するウェブサイトへのアクセス数」ということで、新たな指標を考えてきたところですよ。

海外都市との交流事業について、区民の関心を高め理解が進むよう、区のウェブサイトを改善するなど、情報発信に努めていきたいということでございます。

二つ目の指標は、「国際交流フェスタの来場者数」ですよ。前計画におきましては、外国人の増に焦点を当てまして、外国人入場者数としておりましたが、外国人の方だけでなく、日本人と一体となった交流、にぎわいのある国際交流が実態となっておりますことから、また、そういったことを目指すべき方向だろうということで、指標を変更したところですよ。

三つ目の指標は、「全国自治体との交流件数」になります。前計画におきましては、本区ゆかりの自治体との交流を図る情報発信により理解や関心を高めるということで、区内交流についてのホームページのアクセス件数としておりました。この間、協定の締結は九つの自治体になっておりまして、啄木学級一文の京講座一とか、盛岡市との連携などですけれども、具体的な交流事業を更に推進していくという考え方から、交流件数というものを指標にしていこうというものでございます。

説明は、以上でございます。

○平田部会長 ありがとうございます。

それでは、早速ワークショップに入らせていただきますが、今日のゴールとして、皆さんの意見が一つでも多く担当部署の方に取り入れていただけるように頑張りたいと思います。今日の皆さんの意見を、全部を取り入れることは難しいと思うんですけれども、皆さんの意見が反映されるように一緒に考えてまいります。

観光と交流は結構大事ですので、また短くて恐縮なんですけど、5分間で考えていただけますでしょうか。皆さん、よろしいですか。それでは、お願いします。マジックでお願いします。

(意見抽出)

○平田部会長 そろそろどうでしょうか。まだ書いていらしてもいいんですけども、お預かりに伺います。

とりあえず、まずお聞きしたいんですが、一番早かったのは、今日は岡田さんからですよ。お願

いします。大きい声で。ちょっと、今日はみんなが遠いんですよ。なので大き目の声でお願いします。

○岡田部会長 交流というのは、本当にもう言葉どおりの交流ですので、それを深めるための、深めることのその指標として方法をとということです。

○平田部会長 方法ですね。

○岡田部会長 指標がね。

交流というのは、みんなお互いが会うということが交流そのものなので、その内容的なことということです。

○平田部会長 工夫ですね。了解です。

それと、もう一つあるんですよ。これは。

○岡田部会長 いや、その指標。

○平田部会長 指標がですね。はい、わかりました。

じゃあ、山口さん、2番目にどうぞ。

○山口部会長 せっかく津和野も関係があるんだからということで、全国いろんな自治体との交流会をしたんですけども、やっぱり津和野って文京区にとってはなじみもあって大事なところだと思うんですね。

今は新宿区が来年、漱石の生誕150年で、熊本と一緒にいろんなことをやっているんですね。芝居をやったり、いろんな催物をやって、すごく活発に今はやっている。

鷗外の生誕150年は済んだんですけども、やっぱり津和野って結構、観光事務所もあるし、それをもうちょっと何かうまく使えば、より良い交流ができるんじゃないかなと思います。

○平田部会長 常にある関係を生かして、それをもっとやるということですね。

○山口部会長 山口県とか鳥取県とかの周辺にもいろいろありました。

○平田部会長 切り口ですね。ありがとうございます。まだほかにありましたか。

○山口部会長 海外の都市交流事業で、そのウェブサイトのアクセス件数というんだけど、そもそもカイザースラウテルン市というんですか、どこにあって、どういうことを文京区はやっているのかというのが全くわからない。だから、ウェブサイトに来るのを待っているよりも、そういうことをやっているんだということを、もっと周知徹底させるというか、広報活動が必要なんじゃないかなと思います。

ウェブサイトに来るのを待っているよりも、もっと積極的にということです。

以上です。

○平田部会長 そうですね。確かにね。ありがとうございます。

じゃあ、あと17分ということなので、3番目、青木さん、お願いいたします。

○青木部会長 今の方と同じ考え方なんですけれども、いろんなところで連携しているのはわかるんですが、具体的に何をやっているかというPRがほとんど分からないんですね。だから、こ

ういう都市と連携しているということ自体もあまり分からないので、内容が分からないのも確かなんですけれども、今やっていることも、もう少しいろんなツールを使って情報発信していただいたほうがいいのかと思います。それについての何か指標があれば、これだけやったとか、そういうことをやればいいのかというのの一つですね。

○平田部会長 なるほど。交流ですね。ありがとうございます。

それと、こちらは。

○青木部会員 「五大まつり」とかいろいろあるんですけども、その間、まつり間の連携というのは何か図っているのかなというのがあり、いつものその場その場で単発でやっているようなイメージを受けるんでね。せっかく「五大まつり」と言っているんだったら、何か連携したようなものは。

○平田部会長 予告をしておくとかですか。

○青木部会員 そういうふうにしておくといいのかなと思います。

○平田部会長 されていますかね。

○青木部会員 「五大まつり」があるのは知っているんですけども。

○熱田観光・国際担当課長 観光・国際担当課長です。

それぞれの時期が違うもので、なかなか難しい部分はあるんです。ただ、例えば、それぞれの実行委員会の役員の方を違うまつりに呼んで、そこで、またいろいろ情報共有をしたりですとか、それぞれのまつりが関係者を呼んで、それぞれのよそのまつりでやっていることを見て、それで、またこれはいい取組だというようなところを、自分のところに取り入れたりというような形はとっています。

○平田部会長 運営主体のほうは連携し始めているんですね。でも、PRですよ。

○青木部会員 参加者も含めての話。

○平田部会長 参加者の方がわからないんじゃないかというふうなことです。

○青木部会員 何かこう回っていけば、参加賞みたいなものをもらえとか、何かそういうことによって、逆に言えば……

○平田部会長 スタンプラリーですか。

○青木部会員 例えばの話なんですけれどもね。そういうのをやったらおもしろいだろうと思います。

○平田部会長 なるほど、連携ですね。

○古矢区民課長 今回は自治体のPRについてよろしいでしょうか。自治体のPRにつきましては、区報はもとより、ホームページですとかを頻繁に今は更新をしています。

例えば、今回の「朝顔・ほおずき市」、この土日に開かれたわけなんですけれども、そういうところにも例えば津和野ですとか、それと、山梨県の甲州市ですとかも出店をしております、実行部会員のブログですとか、Facebookも頻繁に更新をしている状況です。1日に何

回も更新をしたりしています。

というところで、我々も区報ですとか、そういう紙ベースのもの以外にも、ホームページ、SNS、ブログ、そういうものも積極的な活用をして、国内交流に関しましては、もちろん観光との連携を図りながら頻繁に更新はしているところでございます。

○平田部会長 そうですね、いろいろ努力はされているようです。是非、応えて。はい、ありがとうございます。

じゃあ、4番目の石井さん、お願いします。

○石井部会員 文京区の一つの強みがやはり東京ドームがあるということとか、あと、文京シビック大ホールのあちこちから、この前も若いママたちが随分いるなと思ったら、23区中から来ているイベントをやっておりました。そういうPRが文京区、すぐ近くに住むと、すぐ近くにあって便利なんだよというような何かPRというか、もっと活用したら、「五大まつり」とかだけじゃなくて、入れられないかなということですか。

○平田部会長 そうですね。若い人が来ますよね。

○石井部会員 はい。

○平田部会長 ありがとうございます。

じゃあ、5番の出井さん、どうぞ。

○出井部会員 いろいろイベントはあるんですけども、逆に言って、毎月、ある程度のイベントを作って、それで人寄せをしてもいいんじゃないかと思います。

その「五大まつり」は、全部協賛しているんですよ。それで、つい最近の「朝顔・ほおずき市」もそうですし、これが大体的にしているかというようなところも、もうちょっとアピールしないといけないんじゃないか。

○平田部会長 そうですね。毎日というのは、いろいろ最近まちおこしの手段として使われていますね。毎日どこかでやっているというのですね。

こちらはどうでしょうか。

○出井部会員 それで、外国人が8,600人いるというので、外国人のボランティアを募集して文京区のことを教えて、外国人の方が文京区をおぶってやってくれるっていうのが……

○平田部会長 なるほど。来たものは使えと。

○出井部会員 そういう発想もいいんじゃないかなと思います。そうすると、あなたの国へ呼んでくださいとかいうようなことです。

○平田部会長 なるほど。喜んでやってくれそうですね。

○出井部会員 そういうのを、もしくは、東大大学の向こうの留学生の方のサービスをするというのはありますよね、実際。逆に言って、外国人の人に文京区を紹介する講座を作って、そこでいわゆるテストをして、あなたの国の人を呼んでくださいというようなことをやってもいいのかなと思います。

○平田部会長 そうですね。これは外国の人にはすごく影響が大きそうですね。ありがとうございます。

じゃあ、6番、上田さん。

○上田部会員 今ちょっと思い付かないんですけども、とりあえずホームステイということでお願いして、まず、海外からの観光客、留学生、ショートステイの方々ね、そういう人たちの宿泊確保を、今はいろんな規制がありますが、その規制をある程度緩和していただければ、もうちょっと人が、いろんなフリーの人が一杯来てくれるんじゃないかということ。

それと、ピンクに書いたのは、その中で地域との連携をやっていこうかなということ。それは、だけれども単独で動くんじゃないで、いわゆる、自治会とか町会とか、そういうところの地域との連携をそのショートステイにつなげていくという形で、それが指標、方向性になってくるのか。だから、それはちょっと二つの面があるんですよ。

ショートステイは1週間か1か月ぐらい泊まっているのは、あれは何でしたっけね。

○平田部会長 民泊。

○上田部会員 違う、違う。何でしたっけ、あれは。最近、ほら秋葉原とか、あの辺に一杯できてきたんですけどもね。大体、10日とか1か月ぐらいで出ていってしまう。

○平田部会長 何かウィークリーマンションみたいなものですか。

○上田部会員 違う、違う。そういう話ですが、まあ、ホテルですけどもね。

○平田部会長 なるほど。

○上田部会員 空き事務所のところにパーティションか何かで仕切ってあって、トイレも洗面所も共有になっていて、そこに1か月、幾らとかで泊る。うちのそばにもあるんですよ。そういう外人が一杯来ていますから、そういう人たちといろんな交流をしたいなと思っているわけです。遠くから眺めるだけじゃなくてね。もっと積極的に加わっていけるような形で、だから、それをやっていけるのが自治会かなというふうに思います。以上です。

○平田部会長 そうですね、自治会は大変ですね。国際交流ですね。ありがとうございます。

じゃあ、7番、村田さん、お願いします。

○村田部会員 上田さんがおっしゃったことと同じかなと今は伺っていたんですけども。

○平田部会長 そうですね。これは一緒かもしれないですね。

○村田部会員 はい。ボランティアの人は日本人の人ばかりだと思わないで、外国から勉強に来ていらっしゃる留学生の方々も文京区の方々と交流できるように、ボランティアガイドとして外国からの観光客をご案内するシステムがあれば良いと思います。

○平田部会長 そうですね。はい、わかりました。

残り6分で、あと4人いらっしゃいますので、頑張っていきたいと思います。

じゃあ、8番、富永さん、お願いします。

○富永部会員 文京区は、いろんな題材がたくさんあって、それをどうまとめてPRしていくか

が大事だと思います。

例えば、最近非常に盛んなお花ブームです。菊、桜、ツツジ、アジサイ、アサガオ、梅などのお花、それぞれ皆、文京区内に名所があります。だから、それを何かまとめて上手にPRしていくことと、地域地域で、地域の中の交流に加え、地域と地域との間の交流がもっと盛んになればよいと思います。

それから、外国人の方も参加される茶道、華道などいろんなグループが文京区にもありますが、そういう方々にもこういうイベントに参加していただき、もちろん、外国人の方にも参加してもらって、もうちょっと盛り上げてはと思います。

○平田部会長 そうですね。いろいろ結んでますんでね。

○富永部会員 そういう要素が沢山あると思います。

○平田部会長 なるほど。ありがとうございます。

じゃあ、9番、牛嶋さん、お願いします。追加がありますか。

○牛嶋部会員 これはまた、全然違うやつなんですけれどもね。

そういう留学生とか外国人とかと交流活動をやっている人たちを集めたりして、例えば、発表会とか、コンクールみたいなものやったりして、そういうのにちょっと賞金を出したりとか、何か集まったりすると、それに興味がある人が参加したりとか、そういうのできるようになるのかなということですね。

○平田部会長 なるほど。新たなアイデアをありがとうございます。

じゃあ、飯沼さん、お願いします。

○飯沼部会員 ゆかりのある自治体との交流というふうなことです。ゆかりのあるという定義がよくわからないので、そここのところの認知度を上げるということが必要ではないかなと思います。人物なのか、地域なのか、何をもちゆかりがあると言っているのか。

それなので、今は9自治体と交流があるということで、今後はそれを広げていこうという方向性、右の方向性に今度はなるんですけれども、その広げていく数というのも大切だと思いますし、その9自治体とのより深まりというかです。

要するに、文京区民でゆかりって何が指標なんだという共通の認知をして、それだったら、あそこはそうだねと言えるようなものというのが指標になればいいんじゃないかなと思います。

○平田部会長 そうですね。交流回数ですかね。何か自治体にそれを言うとあれですけども。ありがとうございました。

じゃあ、野口さん、お願いします。

○野口部会員 観光と交流ということで何かいろいろ出ているんですけども、海外と国内向けでは、当然やることも伝えていくことも変わるので、そういう方向で整理していただけると、またちょっとわかりやすくなるのかなというふうに思いました。

指標としては、交流というところと観光とに両方かかってくるんですが、姉妹都市、友好都市

ってありますけれども、自治体が勝手にやっているだけみたいな感じの雰囲気がちょっと若干、住んでいるとあります。実際にはどれぐらいの人がそこの間で、ふだん観光とかで行き来しているのかというところを、一つ指標としてそこを活発にさせていただけると、我々にとってもなじみの深い友好都市になるのかなと思います。

○平田部会長　じゃあ、お答えいただきたいんですけども、大丈夫でしょうか。

そうですね。新たなご提案をありがとうございます。

何か追加したいことはありますでしょうか。かなり新しい視点がいろいろ出てきたように思うんですけども、牛嶋さんがご意見があるので、それをまず承ります。

○牛嶋部会員　前に宝探しを都内でやっていたと思うんですけども、あれはちょっとやって、まあまあ、おもしろかったと思うんです。ああいうのを例えば、そのほかの連携地域とかそういったものに、スタンプラリーでもいいんですが、連携地域とかに広げたりして、ほかのところから来てもらってやってもらって、何か金賞だったらちょっと旅行券みたいなものを出したりとかしたらおもしろいかなと思います。

○平田部会長　そうですね。ポケモンGOも一緒ですけども。

ちょっといろいろご意見を承っていると、地域と地域も交流したほうがいいし、それから、民間レベルでいろいろ、まだいる人を使っていないんじゃないかというご意見をいただいたので、外国人の方を活用したり、民間で交流する発表会とかコンクールなどを活用するアイデアが出ました。

大分、今回は共通していますね。軸が共通しているように思いました。やっぱり、区民の方はそのゆかりというところがよくわからないというご意見が出ましたので、そこについてはもう既にやっていますよね、いろいろやっつけらっしゃると思うんですが、区民の方が自分から調べないので、情報がどのように届くかなんですよね。

何か言いたいことありますよね。どうぞ。

○熱田観光・国際担当課長　おっしゃるとおりで、例えば、国際交流とか観光のその関係でも、国内の関係も含めて、いろいろやっつけはいるんですけども、それが区民の皆様はまだ周知ができていないところは確かにあるのかなと思います。そこは今後の課題と認識しておりまして、今後はそういった皆さんに情報提供をしつつ、交流を進めていきたいと考えております。

○平田部会長　まつりの予告とか、なかなかおもしろい意見も出ていますし、東京ドームとかいろんなものがありますので、まだ眠っている、毎日のイベントとか、新しい意見も出てきましたので、そこら辺で、ちょっとささいなことから始められることがあれば、取り入れてくださればと思います。

認知度を上げるというのは本当にそのとおりで、いろいろな方から出ていたんですけども、認知度を上げるのが難しい。努力されていて、すごく大変だと思うんですが、私たちが調べればたくさん出てくるんですけども、調べるまではわからないという現状のこの乖離（かいり）を

どうやって近づけていくか、PRということですかね。

それから、この指標もありがとうございます。とてもいいものを出していただきまして、ここを行き来している人数だとか、交流回数とか、新たな視点をありがとうございます。

じゃあ、時間でタイムキーパーさんが焦っていますので、次に進ませていただきます。観光・交流についてのご意見をありがとうございます。

それでは、今日盛りだくさんなメニューなので、あと、区から1回目のことに関して、何かコメントしておきたいということはございますでしょうか。はい、どうぞ。

○古矢区民課長 区民課長の古矢でございます。

地域コミュニティのところでございますが、これに関しましては、部会員の皆様方からたくさんのご意見を頂戴したところです。その内容につきましては、例えば、その町会の加入促進ですとか、それと地域の担い手づくりの問題、それと、やはりマンションとの連携が重要ですとか、それと、まつりですとか地域イベントを活用して、そういうふうなところから地域の担い手の方を発掘すべきではないだろうか。あとは、行政と町会・自治会とがもうちょっと連携をして、加入促進ですとか、地域の担い手、地域コミュニティについて、いろいろ様々、事業展開すべきじゃないかとか、いろんなご意見を頂戴いたしました。

もちろん私どものほうも、そのマンションの視点ですとか、新住人、イベントを活用した新たな担い手の発掘、育成、これは町会とも、私ども地域活動センターが連携しながらやってはいて、イベントに遊びに来る方はいらっしゃるんですが、そこでじゃあちょっとお手伝いをという引いてしまう方がほとんどなものです。そこら辺をいかに新住人の方、マンションの方にご理解いただきながら、町会活動ですとか、そういうふうなところにつなげていけるかというようなところも、我々も現在は非常に苦勞をしながら、様々な仕掛けを考えながら、町会等も連携をしながらやっているところでございます。一応、言い訳といいますか、その辺だけはちょっとご理解いただきたいなと思います。

○平田部会長 それでは、よろしいでしょうか。次に移らせていただきます。

それでは、次の平成28年度基本構想実現度評価の実施状況についてに入ります。次第4です。こちらは27年度、昨年度の実績について政策・施策を評価したものです。

まず、こちらはどのように行うかという、まず担当部署に説明をしてもらって、皆様のご意見を手を挙げていただいて伺うという普通の会議形式に戻りますので、よろしくお願ひします。

それでは、コミュニティ・産業・文化分野の評価の実施状況について所管部からご説明をお願いします。

○林区民部長 区民部長の林でございます。

初めに、地域コミュニティにつきましてご説明をさせていただきます。分野別部会資料第3号、そちらの9ページとなります。

2番目のところに指標というふうに書いてございますけれども、この項目では指標を三つ掲げ

てございます。

初めに、一つ目の町会・自治会への加入促進というところでは、町会への加入率を指標としてございます。町会加入促進のポスターを掲示したり、あるいは、パンフレットを配付、また、区のホームページ等で啓発の活動に努めてまいりました。そうした結果、指標といたしましては、目標が66%の加入率に対しまして、実績としましては66.4%ということで、達成率については101%となっております。

課題といたしましては、新たな転入者、特に若い世代の方たちに町会の活動を広く周知をいたしまして、理解をしてもらい参加してもらい、こうした取組が必要と考えておりまして、特にマンションに居住されている方、この方たちの加入促進を進めていく必要があるというふうに考えてございます。

続きまして、交流・活動の場の提供といたしまして、地域活動センターの利用者数を指標と掲げてございます。礪川、大原、向丘、この3地区の地域活動センターが平成26年度にリニューアルをしたこともございまして、実績数値といたしましては40万4,000人を超える方のご利用をいただきました。当初目標を大幅に上回っておりまして、達成率は129.1%となっております。

続きまして、右側の③と書いてありますところの、新たな公共の担い手と区との協働の推進でございます。こちらは地域課題解決プロジェクトの登録件数を指標としてございまして、実績数値といたしましては27件、27年度は新たに9件の地域課題の解決プロジェクトが登録をされましたが、目標の30件には達することができませんでした。

課題といたしましては、29年度から社会福祉協議会に、こちらは新たな公共プロジェクトの各種事業が移管することとなっております。社会福祉協議会、それと、福祉部の福祉政策課、それと事業を所管しております区民課、この三者が連携をしながら、これまでの運営のノウハウも引き継いでいく必要があるというふうに考えてございます。

次に、3の評価のところでございますけれども、指標の達成率が100%を超えるもの、または100%に達しなかったものが併存してございますので、評価としてはBという評価となっております。

次に、成果・課題でございます。地域コミュニティの核となります町会・自治会、こちらの加入促進の支援、また、地域活動団体の場の整備や交流事業の充実が必要であると考えてございます。

最後、6番目の今後の方向性でございますけれども、地域活動への参加や担い手の世代交代等を促進するためにも、町会・自治会が行うマンション等の居住者や文京区への新規転入者等に対する加入促進を、より一層支援してまいりたいと考えてございます。

1枚おめくりをいただきまして、10ページをご覧いただきたいと思っております。

中項目が産業振興でございます。中ほど2番目の指標でございますが、こちらの項目は四つの

指標が掲げられてございます。

創業・起業支援の充実といたしましては、創業に関するセミナーの受講者、この受講された方の満足度を指標としてございまして、87.5%の方に満足、やや満足という評価をいただいております。目標といたしましては90%ということございまして、達成率は97.2%ということで目標をやや下回ってはいますけれども、おおむね高い評価をいただいているというふうに考えてございます。

次に、二つ目、中小企業の運営基盤強化でございまして、中小企業向けの補助事業の認定件数、こちらを指標とし、目標を上回る55の企業に対しましての支援をさせていただいたところでございます。

次に、右側の③番のところ、商店街の活性化といたしまして、商店会への加入数を指標としております。平成27年度におきましては、プレミアムお買い物券の効果といたしまして、加入数は2,076件ということで、前年を上回る数値となっております。しかしながら、目標の2,170件を下回る結果ということで、達成率につきましては95.7%でございました。

課題といたしましては、プレミアムお買い物券の効果として、先ほど申したように加入数が増加をいたしました。更に目標に向けて努力していきたいというふうに考えているところです。

次に、④番の消費者の自立支援でございまして、消費生活センターの研修への受講者の満足度を指標としてございます。消費生活に関する様々なテーマで研修会等を計16回、延べ418人の方に対しまして行いました結果、92%の方から満足とのご回答をいただいております。目標の80%を上回ったという結果で、達成率につきましては115%となっております。

その結果、3番の評価でございましては、100%を超えるもの、未満のものが併存していることから、Bという評価になってございます。

成果と課題でございましては、商店街加入件数は目標を下回っておりますけれども、商店街の活性化施策を初めとする、更なる取組がとられております。

今後の方向性といたしましては、中小企業調査や企業訪問によりまして得られた企業の状況を踏まえまして、チャレンジショップ支援事業や異業種交流事業を初めとしまして、これらのことを実施することで、産業や商業の活性化につなげてまいりたいというふうに考えてございます。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けまして、商店街振興等、新たな施策も充実してまいりたいと考えてございます。

以上、2項目の説明を終わらせていただきます。

○平田部会長 ありがとうございます。皆さんから十分にご意見を伺いたいところなんですけれども、たくさん項目がありますので、5、6分間とさせていただきます。

ご意見のある方は手を挙げてください。マイクをお渡しに行きます。

○出井部会員 先に地域コミュニティの自治会・町会の加入促進というんですけれども、ちょっと下げて達成しているとも聞こえてしまう。前の目標値が73%で今回66%で達成していると

ということです。

それから、これはスマホでも見られるんですか。ちょっとその辺も質問したいんですけども。

○平田部会長 じゃあ、関係部署の方、お願いします。

○古矢区民課長 申し訳ございません。この数字につきましては、スマートフォンからはちょっとご覧いただくことはできません。これは「文京区制に関する世論調査」というのがございまして、冊子になってまとめられてございます。これに関しましては、2階の情報センター、若しくは、地域活動センターに行ってくださいましたら、こちらの資料等をご覧になることは可能となります。

○平田部会長 ほかにいかがでしょうか。早かったのが飯沼さんなので、すみません、飯沼さん、お願いします。

○飯沼部会員 二つあります。

一つは、交流活動の場の提供のほうで、平成27年の実績が40万4、180人で129.1%の増加を見せたと、これは延べ人数かと思いますが、新たに参加された人の数とか、そういうのはわかりますのでしょうか。

○平田部会長 お願いします。もしよろしければ、マイクなしでもよろしいですか。すみません。

○古矢区民課長 この数字につきましては、9か所の地域活動センターの利用の実績の人数でございまして、例えば、会議室の利用者数、これが基本的な数字になります。したがって、会議室の利用者数のトータルした数でございまして、新規にどういう方が増えたかというところの数字は把握はできておりません。

ただ、爆発的に数字が伸びましたのは、新しく大原地域活動センターですとか、新しく施設が整備されて部屋数が増えたりとか、そういうことがありまして数字が爆発的に増えたというところでございます。

○平田部会長 よろしいでしょうか。

じゃあ、上田さん。ああ、ごめんなさい。もう一つですね。

○飯沼部会員 こちらの産業振興のほうの10ページですね、2番で、企業の創業とか、起業の支援とか、中小企業の基盤強化とか、こういう活動の結果、実際に起業された企業数というのは出るものなんでしょうか。

○福澤経済課長 実際に起業した数というのは、区内で起業した数というのは、ちょっと捉えられないような状況です。ただ、私どもでやっている起業に向けた総合支援セミナーを受けていただいた方で、そのうち何人が起業したというような数は捉えられますけれども、区内全体で創業した数というふうになると、ちょっと把握できないという状況でございます。

○平田部会長 じゃあ、上田さん、お願いします。

○上田部会員 それでは、9ページと10ページなんですけれども、地域コミュニティへの加入促進という件なんですけれども、加入促進はそう難しい話ではないんです。ただ、今後の文京区

の場合、人口の流動性がものすごく激しいんですよね。5万人入ってきて3万人出ていっちゃうと、残り2万人はまたその5年たつと、またその人が全部出ていっちゃって、また3万人入ってきた。お陰さまで今のところ21万5,000人になりましたが、文京区に入ってきて、まだ5年とか10年とかたっていない人が、たくさんいれば、3分の1以上いるんじゃないかと思いません。なじんでないですね、地域に。

一所懸命加入促進をかけているんですけども、そういう人たちの取り込みをどういうふうにするか。防災関係とか、それから、地域の事業をお祭りとか、そういうことで取り込んでいきます。

うちの町会もそうですね、青年団というのが立ち上がりまして、ここで十何年目ですが、最初の青年団会長をやっていたのはもう50を超して、どんどん、新しいのが入ってきております。また逆に言うと、それから出ていってしまう人もいます。

だから、60%ぐらいの加入率というのは、これはかなり妥当な数字に近いですね。これは、少しパーセントを上げるには、ある程度、固定化した人口が出てくる。逆に言うと、安定した、高齢化した人口ですね。これが20年、30年先、多分、文京区は高齢化してくると思います。そうすると、あまり動かない人が出てくれば、かなり加入促進も増えてくるんじゃないかというふうに期待しております。

ただ、その人が町会の中で使えるかどうかは、また別の話ですね。

それから、もう一つ、10ページのほうです。

私は商店街の副会長をやっていますから、加入促進はいつも将来の会費が入るか入らないかということですから、かなり重要なものでございまして、いつも目を皿のようにして、何人入ってくるかなというふうに、毎年毎年、予算を立てるときに考えております。

特に、ここにも書いてあるチャレンジショップ支援事業、これが結構効くんですよね、これがね。うちの場合でもこれは4軒目になります。それで、現在1軒だけどこかへ引っ越しちゃいますが、残り3軒は元気で頑張っているところです。

ただ、年間の予算で数がものすごく少ないですよね。去年は6店舗ぐらいだったかな、確かね。商店街全体の6店舗ぐらい。これに加入のチャレンジショップというのは、いわゆる家賃の半額補助とか、結構すごい予算が絡んでおりまして、かなり魅力的な支援事業なんですよね。これをもうちょっと拡大してほしいなというのは、いつも経済課長には話しているんですけども、なかなか、「うん」とは言ってくれないので、残念だなというふうに思っております。

以上です。

○平田部会長 ありがとうございます。何かお答えされますか。よろしいですか。

○福澤経済課長 チャレンジショップ支援事業について、ご意見ありがとうございます。チャレンジショップ支援事業は今、上田部会員がおっしゃったように、毎年6件の営業に対応をして、区内の空き店舗を活用した、そして商店会に入ることを条件として補助をしているものです。で

すから、区内の空き店舗を有効活用して、区内で起業をしていただきたいというような思いがあって補助しているところがございます。まあ、昨年、今年度、応募が7件ということで、7件のうち6件を認定したというような状況でございます。

今後ともそういった応募状況とかも見て、支援の件数については検討していきたいというふうに思っています。

○平田部会長 ありがとうございます。魅力的ですけども、お金が高いんですね。

じゃあ、ほかにありますでしょうか。

はい、お願いします。

○山口部会員 全体的に、目標値というのはどういうふうに決められたのかというのがよくわからないんですよ。その目標値が本当に妥当かどうかというのが、できれば知りたいなという感じで、その設定の根拠が。簡単にクリアできそうなものもあるし、これは難しいなというものもあるから、そういうところでちょっと、その目標値自体がどうかなというところも思いました。

それから、地域コミュニティのほうなんですけれども、こういう方向性で高齢化が進行しているのは、これはもう確かなんですよ。そういう世代交代も必要なんですが、その高齢化で活動が交代することもありました。ただ、交代するんじゃないくて、やっぱり高齢者がやるんだという、うちはその高齢者なりのその質の転換みたいなものが必要なんですよ。中身のその質の転換、ただ単に交代することもありますよというのは、ちょっと表現としていかがかなという感じはいたしました。

以上です。

○平田部会長 いかがでしょうか。

○古矢区民課長 まず、指標でございますけれども、我々もどういう指標を使うかというのは非常に悩むところございまして、様々な指標が想定はされるんですが、その中で客観的に数字として出せるもの、それを一応、指標というような形で、一応こちらでご提示をさせていただいているところがございます。

あと、高齢者の方の問題に関しましては、おっしゃることは我々も十分理解できるところでございます。当然、今後もやはり高齢化社会というような形になってまいりますので、高齢の方のやはり力も必要ということを考えておりますので、様々な視点から高齢の皆様方との連携・協力を図った中での地域コミュニティの活性化には取り組んでまいりたいと考えています。

○平田部会長 なかなか短い時間でお答えするのも大変なんですけれども、それぞれまたお答えしていきます。

富永さん、手を挙げてました。

○富永部会員 初めに、外国人のいろんな参加ということをおっしゃって、とてもいいことだと思いましたが、その外国人と言っても、いろんなタイプがあると思います。例えば、企業の転勤で来ている方、学生の方、学校で教える方、フリーターで来ている方等々。そして男性と女性、

小さいお子さんがどれぐらいの割合の感じなのか。またヨーロッパ、アメリカ、東南アジアなど、どちらの文化圏の方が多いかということなども、ちょっと何か参考に知りたいと思っています。

○平田部会長 そういうデータをオープンデータのように公開すると、区民の方も役立つということですよ。

意味のあるものは難しいかもしれないですけども、どこかお答えになりますか。

○熱田観光・国際担当課長 今、正確なそういった人数とか、手元に資料はないんですけども、文京区内の外国人の方は留学生の方が一番多いです。区内の大学に留学をされている。

男女比は、ちょっともしかしたら女性のほうが若干多いかなというような、体感的にはそういうイメージで、アジアから中国の方、アジア圏の方が多いいという状況です。ちょっと今、正確な人数の手元に資料がないんですが。

○富永部会員 いや、大体わかればよろしいのです。

○平田部会長 ただ、すごく貴重なご意見をいただいたように思います。オープンデータになれば使えるんじゃないかとかですね、それから、山口さんのほうから、目標値が妥当かどうかを示したらいいんですよ、きっと。公表していったらどうかというご意見もありました。

ちょっと時間が押していますので、そろそろ締め切らせていただいでよろしいですか。

それでは、後半のアカデミー推進部の関連のものをお願いします。

○田中アカデミー推進部長 それでは、私のほうから、5項目全部ご説明をさせていただくということで、まず、11ページをご覧ください。

まず、生涯学習の項目でございます。

この項目では指標を四つ採用しております、まず一つが、生涯学習講座等の充実という観点から、指標は生涯学習講座等の受講者数、それから、満足度80%を超える、そういった講座の実施率ということでございます。ご覧いただきますように、両指標とも目標値を上回る状況で、良好な実績で推移をしているという項目でございます。

二つ目は、②でございます。生涯学習活動支援の人材育成の観点です。指標は、人材育成講座の終了率です。こちらはインタープリター等の養成講座になりますけれども、インタープリターについては新たに25人を認定し、これまでの累計で108人の人材を養成したということでございます。

右に参りまして、三つ目が生涯学習活動の参加促進の観点です。生涯学習一日体験フェアというものがございまして、こちらへの来場者数を指標としておりまして、毎年多くの皆さんの参加が得られているというところでございます。

四つ目が、区立図書館利用者満足度の向上という観点から、指標は、図書館利用者の目的達成度ということになりますけれども、こちら27年度は真砂中央図書館が工事中だったものですから、そこを除く館の集計でございまして、数値はご覧のとおりで、残念ながら目標値は若干下回ったということでございます。

したがって、全体としては3番にありますように、Bになっているということになります。

全体の課題、それから、今後の方向性につきましては、大学等との連携を更に進め、区民に満足していただける多様な学習機会を提供していくとともに、生涯学習司や、あるいは、インタープリターの育成、活躍の場の確保を進めてまいります。

また、この7月リニューアルオープンした真砂中央図書館を中心に、地域の情報拠点事業を充実させていきたいということでございます。

次、12ページをお開きください。

文化振興です。こちらも指標は四つで、一つは、文化・芸術の観点から指標を森鷗外記念館の入館者の満足度としております。良好な評価が得られているという状況でありまして、今後とも、文京区を代表する文人の検証、情報発信に努めてまいります。

二つ目、成果発表の場の提供の観点です。指標は、文化・芸術事業参加者の延べ人数でございます。残念ながら実績値は微増にとどまっております、目標値にはいま一步という状況になっています。

三つ目は、これからの文化・芸術の普及・継承ということでは、若者の参加拡大の観点でありまして、そういった事業への若年層参加者の延べ人数を指標としております。大学等に継続的に働き掛けを行ったことなどから、実績は大幅に伸びまして、目標値をクリアしている状況です。

4点目は、文化・芸術活動の普及の観点で、指標を芸術鑑賞事業への来場者延べ人数ということで、昨年度はシビックホールの大ホールが開館15周年ということもございまして、東京フィルなどの協力を得て、記念公演が非常に功を奏したことから、多くの来場者が得られたということです。一方で、アウトリーチ事業がほぼ横ばいということで、目標値には届かない状況であったということです。

したがって、評価としてはBということで、全体の課題と今後の方向性につきましては、ゆかりの旧伊勢屋質店の一般公開あるいは啄木などの本区ゆかりの文人の周年事業などがございますが、引き続き、区の多様な文化資産の検証に努めていくということ。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた文化プログラム、そういったものにも取り組んでいく考えであります。

次、13ページをお願いいたします。

スポーツ振興です。こちらも指標は四つでございます。

一つ目は、いつでもスポーツに親しめる環境の観点で、指標は、スポーツ施設、スポーツ交流ひろばの年間利用者数ということでございます。この間に江戸川橋体育館あるいは新総合体育館が整備をされておりますけれども、お陰さまで利用者は着実に増加しておりまして、目標値を大きく上回っているということになります。

二つ目は、スポーツ関係団体等との連携強化の観点で、指標は、スポーツ関係団体等との協働事業の実施数ということです。数値的には小さな規模ではありますが、本区ならではのいろいろ

な関係団体との共同を更に進めてまいりたいと思っております。

三つ目は、区民のスポーツ技術と能力の向上という観点では、スポーツ指導員の派遣件数、それから、四つ目のところでは、スポーツ指導員の資質向上の観点から、スポーツ指導者の各種指導者講習会への受講者数ということで指標にしております。残念ながら、いずれも目標値を大きく下回る状況になっております。

したがって、評価としてはBということになります。

全体の課題と今後の方向性につきましては、まずはスポーツセンターの改修など、区民の皆様にご活用いただけるように施設の整備を進めていくということと、区民が身近な場所で気軽にスポーツに親しめるような事業を推進していくということになります。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けまして、障害者スポーツの取組あるいはボランティアの育成ということにも力を注いでまいりたいということになります。

次に、4点目は、観光で14ページになります。

これも四つですけれども、一つ目は、何度も訪れたいまちという観点で、区のまつりイベントの来場者数を指標としております。「花の五大まつり」など、区を代表するイベントの来場者数はほぼ目標をクリアできている状況でございます。

二つ目は、観光資源の周知の観点。こちらでの指標は、観光インフォメーションの相談件数です。ちょっと先ほどの説明と重複をしますが、発表された官公庁の推計では、ご案内のように、今年上半期1月から6月の訪日外国人の客数は28%増ということで、1,100万人というような結果になって過去最高になっております。本区においても、ご覧のように問合せが着実に増えているということで、目標を大きく上回っているところでございます。

三つ目は、おもてなしの心の醸成という観点で、観光ガイド事業の申込者数を指標としております。これについても実績は増加傾向で、目標達成をしている状況です。

4点目は、観光誘致と知名度向上の観点です。指標は、フィルムコミッション事業の相談・連携件数としております。相談の実績は、目標を上回っているところでありますけれども、実際に撮影の協力を結び付くような件数はかなり絞られておりまして、昨年度はご覧のように、映画の映像制作者からのお問合せ140件に対して21件というような状況であります。

したがって、以上四つの指標全て100%達成ということで、評価はAとなっております。

全体の課題と今後の方向性ですが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えまして、増加する国内外の観光客をいかに取り込めるかというところでは、区の観光資源の持つ魅力を積極的に情報発信していく必要があるということになります。その意味では、観光協会との連携を更に進めたいというところになります。

また、本年1月に改修・保存という形で整備をいたしました細川家ゆかりの松聲閣、それから、その一帯にある新江戸川公園の今は整備をしておりますが、そういった周辺エリアを、更に魅力あるものにしていこうというようなことも取り組んでおりまして、新たな観光資源の発展につな

がるような取組にも、力を入れていきたいということでもあります。

最後は交流でございます。15ページです。

こちらにも四つの指標がございます。

一つ目は、海外都市との交流の観点ということで、国際交流事業の参加者満足度ということを目指してございます。昨年度におきましては、日中友好会館などの協力を得まして実施をした国際理解推進講座などの事業を通して、国際交流・異文化への区民の関心が高まっている状況ということでございます。

二つ目、外国人の地域への参画機会の提供という観点では、国際交流フェスタということを実施しておりますけれども、その外国人入場者数を指標としております。かなりにぎわっております。着物の着つけの体験コーナーとか、そういったところでは相当数の外国人の方でにぎわっております。全体としては非常に盛況に終わったということではありますが、指標としては、ちょっと実績は伸びずに、目的達成ができなかったということでもあります。

三つ目の指標の国際交流体験の観点では、ホームステイ参加申込者を指標としております。子どもたちですが、カイザースラウテルン市との間では派遣と受入れを隔年で実施をしております。昨年度は派遣の募集4人に対して31人応募というような、非常に高い倍率になっております。なお、本年度は受け入れておまして、先週23日から8月4日までの2週間の予定で、現在、カイザースラウテルン市の子どもたちが文京区にいる状況です。

四つ目は、国内交流に対する区民の意識向上の観点であります。指標は、ホームページの国内交流ページのアクセス件数ということで、こちらにつきましては、この間、甲州市との相互協力に関する協定、あるいは、熊本県、熊本市、新宿区との包括連携に関する覚書など、様々な形で全国自治体との交流を進めておまして、目標の3倍近い実績となったところであります。

したがって、評価としてはBとなっております。

全体の課題と今後の方向性についてです。国際交流につきましては、ドイツあるいはトルコ、中国といった多様な形ではありますけれども、大事なことは区民の理解を得ながら、区民にとって意義のある交流となるように事業を進めてまいりたいということでございます。

また、国内交流につきましては、国内自治体と協定・覚書を締結した自治体だけでなく、先ほど申し上げましたけれども、特別区の全国連携プロジェクトも踏まえまして、更に取り組を進めたいということでございます。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○平田部会長 ありがとうございます。

ここは分野が多岐にわたりますので、ご意見を十分承るのにちょっと時間が足りないかもしれませんが、ここで一つ覚えておいていただきたいのは、指標はやはり区民の皆さんに成果が見えやすくするために文京区が独自に考えたものですから、これは大切にしてください。それを見て、こういうふうには評価しますよというのは自由に言っていただいてもいいと思います。じ

やあ、いかがでしょうか。

どうぞ、お願いします。

○出井部会員 11ページの生涯学習なんですけれども、生涯学習というのは要するに年齢的にはどうなんですか。自分もオープンカレッジに行ったことがあるんですが、基本的に、年齢的にどのぐらいの年代が多いのか、生涯学習のケースということで。

今は高齢化していますから、逆に言うと生涯学習というのが、もう60歳になったら小学校に入学するというような、極端に言うと、義務教育化というような考え方をしてもいいんじゃないかと思います。どうしてかというと、文京区は「文の京」ですから、特殊教育ということで、そういう構造を設けてもいいんじゃないかなと、新しい考えということでいかがですか。

○平田部会長 はい、じゃあ、お答えを。

○竹越アカデミー推進課長 アカデミー推進課長の竹越です。

年齢につきましては、元々がそのアカデミア講座のように、ご高齢の方を中心にした講座もありますし、あと、幅広く自由にとり講座も用意してございますが、講座の時間がどうしてもいわゆる平日の昼間になれば、若い方は参加しづらい、ご高齢の方が参加しやすいというところは、いたし方がないところがあるかなと思います。

ただ、土日とかの講座等になりますと、一発物の講座等になりますと、幅広いいろいろな年齢の方が、ご興味のある方が参加することができる。そういう意味では、私どもはいろいろな形での講座のご提供をしていきたいというふうに考えております。

○平田部会長 ほかにいかがでしょうか。

どうぞ、石井さん。

○石井部会員 今の生涯学習のところなんですけれども、講座は区のほうで全て企画して提供されているのかどうか。例えば、区民の中には様々なスキルや資格や能力を持っていらっしゃる方がいたりする場合に、プラットフォームのような、ここにも基本構想の昨年の方向性のところに、場の充実を図りますというふうに、下から4行目のところにありますけれども、場を何かプラットフォーム的なものをつくって、手を挙げていただいて、私はこういうことができますと。こういう興味のある方はどうぞというような、もっとダイナミックな広がり、動きとか、そういうものが可能なかどうか。一方的に提供されて、知っている人は知っているし、知らない人は知らないということではないものを、区としては何かできないかどうかをちょっと伺いたいです。

○竹越アカデミー推進課長 講座の提供の仕方も様々でして、区が主催しているものもあれば、指定管理者の財団が、区の趣旨にのっとって行うものがあったり、また、財団が自主的に区民の皆さんのご希望に沿うような形のものを選んだり、講習物については、地域の方が自分たちでやるものを区が講演するような形もございますし、それと、また次の新たな基本構想実施計画を作るに当たっては、区民プロデュース講座と言いまして、地域の方からご提案をいただいたものを、

区のほうを選定をして講座をしてもらうということも、次の新たな実施計画の中では検討したいというふうに考えております。

○平田部会長 ほかはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○上田部会員 それでは、生涯学習から始めます。時間がないのでいいかな。

アカデミアの推進協議会では、「区内まるごとキャンパス」という形で2年ぐらいやっていたね。それは、今年の3月で終わりました。

それで、この中に「区内まるごとキャンパス」というのがありましてね、じゃあ、区内のどこにキャンパスがあるか、どういう講座があるか、なかなか探しにくい。区のほうで指導しているキャンパスはどこにあるんでしょうかというものを、もうちょっとアピール力を高めてほしいわけですね。その中で、どういうものを、どういうところを受講したい、どういうものを勉強したいかなというところを選別していくわけですから、そうすれば、その人が趣向の中で学習が長続きするかもしれない。そういうのがとてもアカデミーの推進の意義じゃないかなというふうに思っております。まず一つ。

○平田部会長 まとめてまず言っていて、それからお答えでよろしいですか。まとめてお願いします。

○上田部会員 全部ですか。今度はスポーツのほうですけども、達成率がものすごく低い。70%とか57%とか、13ページですが、区民のスポーツの技術とか、能力の向上とか、スポーツ指導者の資質向上とかという中ですね。これは指標が高すぎるのか、それとも、本当にこんなようなパーセントになってしまう。この辺の原因は何かなということ、わかりましたら教えてください。

それから、もう一つ最後に、14ページのこれは観光のほうですね。そうですね、観光事業ですね。

この中で、海外との交流の中で、ドイツ、トルコ、中国という形で国の名前が明記されておりましたけれども。これは、何ページですか。

○出井部会員 15ページ。

○上田部会員 15ページですね。そうですね。

○出井部会員 15ページ、今後の方向性。

○上田部会員 ああ、ごめんなさい。15ページですね。

ドイツは森鷗外とか、そういう形で、交流も大分前から進んでおりますし、中国はお隣の国ですから結構交流はあると思うんです。トルコとの関係ってこれは何なのでしょう、文京区との。これはちょっと教えていただきたいと思います。

それから、最近、トルコが政情不安になりましてね、トルコに行く予定、部会長もそうですね、トルコに行く予定だったのにキャンセルになっちゃったんでしょう。うちのほうは昭和大学

が行く予定だったんですけれども、昭和大学がキャンセルになっちゃいまして。昔からトルコと日本とは結構交流が盛んだったんです。ロシアに攻められているのを助けてくれたとかというような話がありますから。でも、現在の21世紀の中で、トルコとの交流はどういう観点で動かししているのかなと思います。防災協定とかはやったらしいですけれどもね、その辺の三つだけ、ちょっとお知らせください。

○平田部会長 じゃあ、順番にお願いします。

○竹越アカデミー推進課長 それでは、「区内まるごとキャンパスに」の考え方なんですけれども、決して、19大学があるからどうこうというわけではなくて、文人を初めとした昔からの地であるということと、名所旧跡等様々あるという、そういうその施設そのものを生かすだけではなくて、実際その人材の観点からも、大学や事業者やNPOと様々な人たちが、この場において活躍して実際活動しているということ。そういった、いつでも、どこでも、誰でもが学べるような、こういう場全体を「区内まるごとキャンパスに」という考え方で言ってございますので、大学のキャンパスがストレートにここで言うキャンパスではなくて、全体というふうに関連的に捉えていただければと思います。

○上田部会員 それが私には見えません。

○竹越アカデミー推進課長 見えるように努力したいと思います。

○平田部会長 スポーツ振興をお願いします。

○細矢スポーツ振興課長 続いて、13ページの③番の指標でございしますが、これについての考えは、やはり一つは実績がどうしても伸び悩んでしまったということがございます。特に④については、周知が若干遅くなってしまって、参加する方が減ってしまったというのがありますし、また、目標値については、少し高望みをしてしまったのかなというふうに考えております。また、今後28年度以降についても、同じ指標を使いたいと考えておまして、これについては、とりあえず実績に基づいて、現実的な指標をつくっていきたいと考えているところです。

○平田部会長 では、三つ目について。はい、どうぞ。

○熱田観光・国際担当課長 続きまして、トルコとの交流の関係をお答えいたします。

これトルコではイスタンブール市のベイオウル区というところなんですけれども、きっかけは平成25年にトルコ大使館を通じて、このベイオウル区が文京区と交流をしたいというような、そういった申入れがあって始まったということで、文京区とこのイスタンブールというのは、歴史とか文化ということが非常に盛んであるという共通点もありまして、交流が進んできたというところがあります。

また、同じ地震国ということにもかかわらず、トルコのほうは、道路のほうは対策が進んでいない部分もあるということで、JICAの事業で協力をしているという流れです。

この政情不安に関しては、ここ最近、悪化しているという状況で、なかなか今は文京区民の方が向こうへ行って交流するというのは、正直難しいかなというふうに考えております。向こうか

らこちらに来ることは問題のないことですし、そういった中で、できる範囲での交流を進めていて、また、政情のほうが安定いたしましたら、お互いに行き来できるような形で交流を進めて、もともと、そのトルコは親日国家ということもありまして、一つドイツ、中国とともに進めていきたいというふうに考えております。

○平田部会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

すみません。そうしましたら、残り40分ぐらいのプログラムがまだ残っているんですね。なので、短目をお願いします。

○牛嶋部会員 ちょっと全体的なところで、目標が特に達成しなかったものに関して、課題が書かれていると思うんですけども、それについてやるのが現状維持というのと、例えば、予算や人員を増やしてオプション達成を目指すというのと、縮小するという三つがあると思うんですが、その辺を今後どうしていくのかというのを、ちゃんとここに書いたほうがいいのかなと思っています。

だから、評価のところもA、B、Cもいいのですけれども、基本的に10項目の評価というのは我々にとってはあまりどうでもよくて、その後をどうするのかというところが大事なんじゃないかと思うので、要するに、拡大するのか、現状維持なのか、縮小するのかというところを、ちゃんと評価のところと一緒にしてもらいたいというふうに思います。

○平田部会長 これはどなたがお答えになるんですかね。

○加藤企画課長 こちらは基本構想実施計画の現計画になりますので、3年前に作って、こういう形で3年間の実現しようという形で評価しているものになります。ですので、年度の途中で変えるということとはできないんですけども、今回のこの評価を踏まえて、次の計画の中でその部分をどういう形で生かしてくるかというところで、今回の評価については活用していきたいと考えております。

○平田部会長 それでは、ほかの質問はいかがでしょうか。

本当はゆっくり討論したいところなんですけれども、申し訳ありません。次のメニューが待っていますので、よろしければ先に進めさせていただきたいんですが、よろしいですか。

○上田部会員 14ページのコミュニティと産業文化ですね。この中でフィルムコミッション、これはちょっと、僕も何年か前に絡んでいたんですけども、なかなか東京のほうでは、フィルムコミッションは展開しにくい状況で、横浜のほうはかなり先進的ですね。テレビに映っているところ、ほとんど例の横浜の街ばかりで。だから、東京のフィルムコミッションは今はどうなっているのかなと思います。特に、その中で文京区はどうしたらいいんだろうと、そういうことです。

○平田部会長 お答えになりますか。短目をお願いします。

○熱田観光・国際担当課長 フィルムコミッションですが、文京区では、どちらかといえば、お

申出をいただいて、それに協力するという形で進めています。ただ、いろいろ、いろんなところでテレビに取り上げられる機会は増えてきているかなというふうに思っています。

○平田部会長 ありがとうございます。

それでは、もうちょっと承って意見交換をしたいところなんですけれども、すみません、居残り勉強を避けるために、先に進ませていただきます。

それでは、次第の5に入ります。たくさんメニューがあつてすみません。

平成28年度まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理の実施状況というのを、今日やっていただかないといけないんですね。ですので、初めにこれを事務局から説明してもらいます。続けて、産業振興と観光・交流分野に関する28年3月末現在の実績について、担当部署から説明がございまして、お願いします。

○加藤企画課長 それでは初めに、私のほうから概要を説明させていただきます。こちらの席上にある茶色い資料、こちらをご覧ください。「文京区まち・ひと・しごと創生総合戦略」と書いてある茶色い冊子になります。よろしいでしょうか。

1ページ開いていただきまして、「はじめに」というところがございまして、こちらをご覧ください。

まず、この総合戦略の背景をこちらで説明しておりますので、簡単に内容について説明させていただきます。

国では、少子高齢化に対応して人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的として、「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。この法律では、各地方公共団体に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、こちらの策定を努力義務として課しております。

文京区におきましても、「文京区人口ビジョン」、人口の現状分析及び将来の展望等を提示したものを踏まえまして、27年度から31年度までを計画期間とする「文京区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。それがこちらの冊子になっております。

それでは、6ページ、7ページをお開きください。

総合戦略を作るに当たりましては、人口の現状及び分析、将来の展望という形で、分析したものが、6ページから7ページになります。

6ページ、左側の部分で見ますと、将来の人口推計、平成72年までということで、人口推計をしているものでございます。

また、右側のページの図表8、独自推計となっておりますけれども、こちらは合計特殊出生率、を1.4まで上昇させた場合には、このような形で人口が推移するというものでございます。これは第2回の勉強会の中でも説明させていただいておりますが、左側の表から右側の表に出生率を上げることによって、例えば、人口全体のピークですと、左側の表ですと平成32年になっておりますのが、これが右側の表では平成42年ということで、10年間後ろに延びる。また、生

産年齢人口と年少人口が後ろ倒しになるというような推計になっております。

続きまして、8ページをご覧ください。

こちらは総合戦略の位置付けになります。まず、10年間の基本構想がありまして、その下に基本構想実施計画、今回策定していただきます計画になりますけれども、こちらがございまして。現行計画、2期の計画が26年度から28年度まで、これから策定していただきます3期が29年度から31年度まで、それぞれ3年間の計画になっております。

それに対しまして、文京区まち・ひと・しごと創生総合戦略、こちらにつきましては、平成27年度から31年度までということで、現行計画のほうは26年度から28年度になっておりますので、現行計画の2年目、3年目、それと、これから作る計画の3年間、これがちょうどこちらの計画とかぶっている期間になります。

基本構想実施計画の中で、「まち・ひと・しごと創生」に関する部分、ここを中心に基本構想実施計画と整合がとれるような形で、この計画は作られております。

1ページおめくりいただきまして、10ページ、11ページ、全体の概要になります。

基本目標として四つの分野、まち・ひと・しごとに関連する四つの分野がございまして。それに対して、基本的方向性、また具体的施策という形で体系付けられております。

具体的には、席上に本日置かせていただきました「まち・ひと・しごと創生総合戦略評価表」、こちらのほうで検討していただきたいと思っております。ちょっとこちらのほうの見方だけ簡単に説明させていただきます。席上にあります評価表をご覧ください。横書きのA4になっているものです。

四つの分野、子育て支援から始まりまして、ページをめくっていただきまして、次のページ、高齢者福祉、その次が、産業振興、そして最後のページが、観光・交流となっております。こちらの部会では、3の産業振興と、次の4の観光・交流について検討をしていただくことになっております。

3の産業振興のほうをご覧ください。先ほどの基本目標、こちらは基本構想の将来像の10年後にあるべき姿のところから、そのままとっているものでございまして。

それに対して、基本的方向、また数値目標が2種類ございまして、大きな数値目標としてこちらに掲げるもの、こちらは数値と言いましても累計値になっております。

経済センサスによる区内事業所数及び従業者数、これは27年度から計画は始まっておりますけれども、31年度には、累計して最終的にはこうなるということです。27、28年度が現行計画、29、30、31年度が、これから作る計画と整合するような形で数値が設定されていきます。

また、下の具体的施策ですが、真ん中辺りのところですがけれども、KPIと書いてあるところの右側、こちらにも累計値になります。分野によっては、累計値であったり単年度の数値であったりしますので、ここは注意の上、検討していただければなと思っております。

概要については以上です。

○平田部会長 それでは続いて、産業振興と観光・交流について担当の部長からのご説明があるのですが、お二人併せて5分以内でお願いします。皆さんのご意見を賜りたいので、よろしくお願いします。

○林区民部長 それでは、資料の3番の産業振興、3枚目のところになりますけれども、お聞きください。

基本目標、基本的方向のところにつきましては、先ほど企画課長がご説明したとおりでございますので、数値目標のところから話を進めさせていただきたいと思っております。

31年度の数値目標といたしましては、国が実施いたします調査であります経済センサスという調査がございます。これは2年に一度の実施される調査でございますので、その調査によります区内の事業所数及び従業者数を、31年度の目標として1万4,303事業所、22万5,612人という目標を設定してありますが、先ほど申したように2年に一度の調査でございますので、27年度につきましては調査の実施年ではございませんので、数値がそのまま26年度の当初の数字が記載されてございます。

続きまして、具体的施策でございますけれども、中小企業の振興事業といたしまして、具体的事業、五つの事業を指標として捉えてございます。

五つそれぞれの事業を例えば5年間で、26年度当初と31年度最終目標との比較を単純に5で割ってその数字を見ますと、おおむね20%を超えているものが三つの事業、20%を下回っているものが三つの事業ということで、1番目の中小企業向けの経営相談事業につきましては、経営相談件数では達成率としては24%ほどとなっておりますが、相談件数、支援員の相談件数につきましては12.9%ということで、20%を上回っているもの、下回っているものがございます。

2番目の項目、それと、4番目の中小企業等資金融資あっせん事業、こちらそれぞれ20%を上回っている結果となっております。

また逆に、3番目の各種補助事業、それと創業支援事業、こちらにつきましては20%を下回っているということになりますけれども、トータル、この項目としましては、それらの率を単純平均すると大体19%ということですので、5年間の初年度としては順調な滑り出しかなというふうに考えてございます。

おめぐりいただきまして、2番目の就労支援対策事業でございます。こちらは若年者の就労支援セミナーの参加者数を指標としてございまして、31年度の目標が延べ851件で、初年度412件の実績がございましたので、率で割り返しますと32.5%ということで、こちらにつきましても順調な数字というふうに捉えてございます。

続きまして、③番目の商店街支援事業でございます。こちらは四つの事業を具体的事業として捉えてございまして、4番目の商店街エリアプロデュース事業につきましては、28年度からの

新規事業ということになりますので、31年度の目標数値は入ってございますが、26年度の当初数値と27年度の数値につきましては、まだ実績がないということから横バーの表示になってございます。

したがって、この三つの事業のうち、当初の目標数値を単純に5年度に割り返した数字で言いますと、1番目の商店街販売促進事業につきましては19.2%ということで、ほぼ予定どおり。2番目、3番目の項目につきましては24%、それと36.4%ということで、当初の想定されている31年度の目標値を単純に割り返した、5年間で割り返した数字よりは上回っていると、そういうふうに評価をしているところでございます。

○平田部会長 では、続いてお願いします。なるべく短目で、2.5分でお願いします。

○田中アカデミー推進部長 4番の観光・交流ということでご覧ください。

数値目標につきましては、2項目でございますが、ガイドツアーの年間参加者数、これを現在2,000人余りのところを8,000人まで持っていこうというものであります。

こちらは、分野別部会資料第2号でご覧いただきたいと思うんです。46ページに詳しいその意味合いが書いてございますので、後ほどお願いいたします。

それから、2点目の国際交流フェスタの外国人入場者数、こちらにつきましては、分野別部会資料第2号の48ページに、そういった指標の説明がありますので、ご覧いただきたいと思いません。

いずれにしても、しっかりと増やしてまいりたいということでございます。

具体的施策につきましては、③まで3項目であります。全国連携プロジェクト事業、それぞれ具体的施策を並べてあります。

あと、観光ガイド事業の充実、外国人参加型交流事業ということで、これまで何回かご説明したのもございますので、その辺を思い出していただきながらご覧いただければと思います。

以上です。

○平田部会長 ありがとうございます。

それでは、この議論を30分までに終わらせたいと思います。たくさんのご意見を承りたいので、とりあえず、まずご意見のある方を複数聞いてお答えをいただこうと思いますので、お願いします。

皆様考えている間に私が呟っておきますと、この項目は昨年度審議されて決まっているものです。それから、5年間で進行管理を見ていきますので、今年1年目ですから、そんな焦らなくてもいいということをお頭の中心に入れておいてください。

○出井部会員 この若年者就労支援セミナーというのを、これは働いていないという人のことなんでしょうか。

○平田部会長 お答えをお願いします。

○福澤経済課長 正規雇用をされていない方を対象にしているということです。

○出井部会員 じゃあ、臨時雇いとか、そういうことですね、アルバイトとか、パートとか。

○福澤経済課長 そういう方も含めて入るということでございます。

○出井部会員 今、正規雇用にしようということで、大手なんかはアルバイト、パートというのを全部正社員にするというようなことがありますよね。そういう利用の面というので、どんどん増えているんですけども、自治体で増やしていくということでしょうか。

○福澤経済課長 就労支援については、区内にハローワークですとか、東京しごとセンターなどという、国や都の就労支援機関もございますので、区としては若年者を対象とした非正規、または、就職していない方を対象としたセミナーを実施しておりますけれども、そういった国や都の機関と連携して、一緒にその就労支援を行っているところでございます。

○出井部会員 わかりました。

○山口部会員 ちょっとわからないんですけども、何を我々に求めているんですか、これは。目標も決まっているし、その項目も全部決まっているわけですよね。我々は何を言えばいいのか。妥当かどうかという。

○加藤企画課長 先ほどちょっと概要の中で説明させていただいたんですが、基本構想実施計画との整合を取ったうえで、国のほうで、特にこのまち・ひと・しごとの分野の計画を作りなさいということで作っております。

こちらの計画を作るに当たりましては、区民の方とか、そういう方たちから、進行管理について意見を聞くようにという形で、国のほうからも指示されている部分もございます。うまくいっているというような説明ですので、なかなかご意見を言いづらい部分もあるかと思うんです。数字上うまくいっていたとしても、こういう事業については、これから31年度までの中で、こういうことを考えたらいんじゃないかとか、そういうようなご意見をいただければなど、数値が高い低いというご意見もいいんですけども、そのような観点でご意見いただければなどと思います。

○山口部会員 わかりました。はい、了解です。

○平田部会長 苛酷な要求ですみません。はい、どうぞ。

○野口部会員 何か今言ったことをざっくり言うと、国から意見を聞きなさいと言われているから聞きましたというようにも聞こえてしまうんですが、意義深いものとするれば、結局、PDCAの中で、このチェックと次のアクションをどうしていくかということが必要かと思うんです。数値だけ見せられてもチェックの正直しようがない。何をしてこの数字になりました、では、ほかに何か手段がありますかという意見になってくるのか、あるいは、何か足りないものがあるのか、もっとここを注意をしたほうがいいのか、そういう意見の出ようもあるんです。数字だけ見せられても、何をやってこの結果なのかがよくわからないので、結局、意見のしようがないというのが正直今の意見なんです。

○平田部会長 そうですよ。確かに、おっしゃるとおりだと思います。ただ、わからない点と

か、それから、何か説明が欲しい点とかありましたら伺いたいと思います。

○加藤企画課長 補足という形になりますが、確かに、国のほうではそういう制度になっておりますけれども、元々文京区のほうでは基本構想があって、その下に基本構想実施計画があって、また先ほどお示したように、政策施策の評価とか、事務事業評価といろいろやっておりますので、そちらのほうで実際はできている部分もあるんです。この四つの分野については、併せて区民の方のご意見もということですので、具体的な数値を示されて、ちょっとご意見が言いづらいたとも思うんですが、大きな考え方としては、人口の減少とか、そういうものに関して、大きな流れの中で区としても頑張りなさいという形になりますので、そういう視点の中でも、例えば、この商業振興とか、交流とかというところを、大きな視点の中でどう考えるというようなご意見を、ちょっと難しい言い方になるんですけども、もしあるようであれば。

○平田部会長 なかなか言いづらいですね。

じゃあ、牛嶋さん、どうぞ。

○牛嶋部会員 そういう意味では、例えば、人口を増やすとか、そういったものに関して言うと、産業振興とか、その観光・交流というのは、あまりそういうところには機能しないのかなというふうに思いますので、もちろん、その仕事とかに関して言いますと、住んでいる人ができればいいんです。でも、やっぱり仕事って必ずしも文京区民が別に文京区内で就職するわけでもないし、その辺、区が区民に対してどうしていくというのと、やっぱりその事業者というのは、必ずしも区民に対するあれではないことですので、それが多分、二つ大きく分かれるのかなというふうに感じるわけです。

ですので、ちょっと目標というか、総合戦略のところの目標がちょっとわかりにくくなっているので、ちょっとその辺を整理していただければという感じです。だから、最初に人口とかの説明があったかと思うんですけども、多分、その産業振興とかにはあんまり直結しないのかなと思いますので、ちょっと、その産業振興と関わるその目標的なものも、ちょっともう一度教えていただけると、要するに、この分野に関して、その方向性とかの確認をさせていただければと思うんです。ちょっとわかりにくいかもしれないんですが。

○加藤企画課長 この産業振興ということ言えば、まち・ひと・しごと創生総合戦略10ページのところをちょっとお開きいただければと思います。

こちらが四つの分野で、大きくはその人口の部分でお話ししましたけれども、それだけではなくて、まち・ひと・しごとということで、仕事の部分も計画の中に入っているということです。これの上から基本目標の3番目、産業振興の右側のところに基本的方向ということで、起業希望者の区内での創業の促進といったことにより、区内産業、商店の盛り上げを目指していきますということで、まち・ひと・しごとのしごとの部分では、こういう形で方向性としては考えています。

○平田部会長 なかなかご意見を言いづらいテーマで恐縮なんですけれども、ほかにご意見ある

方はいらっしゃいますか。

はい、簡単をお願いします。

○上田部会員 あまり抽象的な話ばかりしているんで、ちょっと具体的な話をしたいと思いません。

ちょうど先週の金曜日ですけれども、山形県の新庄から最上地域雇用創造推進協議会というところのイトウさんという方がいらっしゃいまして、是非、山形県の新庄に来てくれと、何か使って地元の商品を文京区で販売、加工、それから、レストランとか、そういうところで使ってもらえないかということです。これは国からも情報が入ってまして、今文京区から5、6人のレストランの経営者、居酒屋の経営者、そういう人を連れていこうと思います。往復の新幹線代は全部山形県のほうです。多分、これは国からの補助金が100%じゃないかという感じで、このような形で、ここに載っている創業支援事業というのがございますが、この場合、同じようなあれじゃないですかね。文京区としては、この辺をどういうふうに考えていくか。それから、こういうものの予算をどういう形につくっていくか。それと、現在、こういうような話で山形県からこういう話があったから、山形県との業務提携をしていこうとか、そういうような具体的な話に持っていけば、こういう抽象的な基本的方向性にマッチングするような形ができていくんじゃないかなというふうに思っています。

これ、ただ、このまち・ひと・しごと創生総合戦略だけ読んでいると、何をしたいかわからないというのが具体的な話ですね、考え方としては。

だから、細かく細かく具体的な話を詰めていくほうがいいんですけれども、基本構想のほうはあまり具体的な話をするわけじゃないですよ。抽象的な全体的な意見だけで済ませようというのが、この会の趣旨だと思いますから。

しかし、そういう中で頭の中にこういうものを入れながら、そういうふうな話をしていきたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○平田部会長 ありがとうございます。

じゃあ、申し訳ありません。もう一つメニューがあるので、先に進んでよろしいでしょうか。

最後の次第6、政策を実現するための行財政改革について入らないといけないので、ちょっとだけお付き合いください。ちょっと延びてしまいますが、なるべく早く終えます。

初めに事務局から説明をいただくんですが、この項目だけは区民協議会全体会にてご意見を賜る機会がありますので、今ここで意見をおっしゃらずとも、説明を聞いて、ご説明に対してわかりづらい点があれば質問を承りますけれども、簡単に終えていただこうと思います。よろしくお願いします。

○加藤企画課長 それでは、分野別部会資料第2号をご覧ください。今日、最初に使っていた資料になります。

こちらの別紙と書いてあります1枚目ですが、基本構想実施計画方向性・指標（案）と書いてあるところに、目次というのが最初のところに書いてあります。よろしいでしょうか。

これまで子育て、教育、それ以下、四つの分野について各部会の中でお話ししていただいております。それで、この四つの分野だけではなくて、この四つの分野全体を支えるような行政運営の仕組みが必要になりますので、その部分についての検討になります。

最後のページ、63ページをお開きください。

こちらが各分野を支える全体の分野になります。行財政運営ということで将来像が四つございます。

それで、こちらの（1）から（4）までの内容ですけれども、こちらの資料で、「第3章 計画事業」という資料があると思いますけれども、こちらがわかりやすいので、ちょっとこちらをお開きください。このダイアのついている計画事業です。こちらの資料になります。こちらと両方を見ながらご説明させていただきます。

こちらの計画事業の7ページ目のところをお開きください。

7ページの一番下のほうですが、第4のまちづくり・環境の下のほうから行財政運営というのが7ページから8ページにわたって書いてあります。

こちらの方に具体的な事業が載っておりますが、こちらがこの行財政運営分野の具体的なところとなります。

例えば、区民サービスの向上、こちらを7ページのところで見ますと、職員の育成であったり、ITの活用であったり、また、8ページにまたがっていただきますと、小項目、効率的質の高いサービスの中で、協働であったり、大学の連携であったり、こういうものがあります。

また、（2）の開かれた区役所では、広報機能の強化ということで、わかりやすいホームページ、（3）番の区の公共施設の部分では、施設の効果的・効率的活用、利用しやすい公共施設等、最後の行財政運営のところでは、事務事業の見直しであったり、組織の活性化であったり、これについては全ての分野を支えるような形になりますので、最後にこういう形で一つの分野として捉えています。

ページをめくっていただきまして、一番裏のページ、64ページになります。

これがこの分野の今後3か年の方向性となっております。

中身ですけれども、区では、一般財源の増に支えられてサービスの向上に適切に対応していますが、社会状況の動向とか、あるいは、少子高齢化の進展、また将来的には、生産年齢人口の減少による税収の減少が懸念される等のことから、財源の積極的な確保と事務事業の不断の見直しを行っております。

また、公平性の確保の観点から受益者負担の適正化、世代間の負担の公平性の観点から基金と起債の適切な活用等によって、将来にわたって持続可能な行財政運営を図っております。

そういった一方で、人口構成の変化に伴って、より個に応じたサービスが求められており、事

務事業の選択と集中に取り組むことにより、多様化する区民ニーズに対応するとともに、区民サービスの向上を図っていくということを考えております。

さらに、新たな行政評価というお話もございましたが、新たな行政評価の仕組みの構築とか、オープンデータの調査・研究、こういったことを進めることで、現場主義の職員育成、さらには、「品質志向の区制運営」の進展を図っていくということを考えております。

また、公共施設の部分では、公共施設やインフラの老朽化、こういうことが今後の大きな問題として挙がってまいります。人口構成の変化に伴って、また、高齢者、子ども、そういった構成の変化によって利用するニーズも変わってまいります。こういったことに対応するために、中長期的な視点で、維持管理や運営にかかるコストの平準化、抑制を進めるとともに、現在ある区有施設あるいは公有地を有効に活用しながら政策を進めていきます。

この今後3か年の方向性も含めて、区民協議会全体会のほうでまた再度検討していただきながら、ご意見いただきたいと思っております。

全ての分野にわたる部分ですので、各分野の中で説明をさせていただいております。

以上です。

○平田部会長 何かおわかりにならないとか、それから、何か今日言っておきたいということがありましたら、一、二名に伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本当にたくさん詰め込んだ会で、長い間、ご協力を本当にありがとうございました。皆さんのどういう城下町をつくるかということから始まったこの議論が、夢を乗せてまた進んでいくといいと思うんです。これは職員の方もすごく努力して事業を成功させるだけではなく、さらに、その評価も受けていますので、職員の人たちも相当に負荷が掛かっていますので、どのように効率的に回すか、また全体会で意見を承れればと思います。また、オープンデータにするとよいものも、また全体会でおっしゃってください。

全体に関して何かございますでしょうか。

それでは、事務局のほうからお願いします。

○加藤企画課長 それでは、今後の予定になります。

次回の区民協議会全体会は、8月17日、水曜日、6時半からになります。また、これについては改めて通知を送らせていただきます。8月17日、水曜日、場所につきましては、24階の第一委員会室、最初に行ったところになります。

また、その他の部会につきましても、7月26日と28日、2回ございますので、この部会に参加されている方につきましては、7月26日につきましては地下2階、7月28日につきましては5階、26日、福祉・健康部会、こちらが地下2階、28日、まちづくり・環境部会、こちらにつきましては5階となりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、冊子につきましては、置いていただければまたご用意できますので、よろしくお

願いたします。

○平田部会長　じゃあ、皆さん、いろいろ盛りだくさんの会議を、区の職員の方も遅くまでありがとうございました。

皆さん、本当にどうもありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。